令和７年度

病害虫発生予報　第２号（５月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

＜予報の概要＞

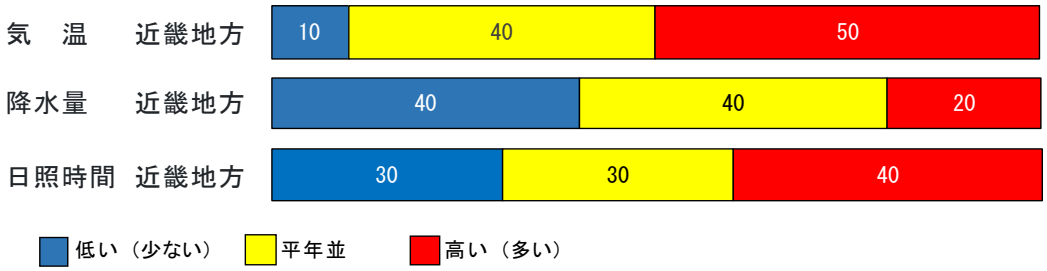
作物名	病害虫名	発生量
水稲	もみ枯細菌病による苗腐敗症	並
	ばか苗病	並
	いもち病	並
	縞葉枯病	やや少
	ツマグロヨコバイ	並
	イネミズゾウムシ	並
タマネギ	灰色かび病	並
	べと病	並
キュウリ	べと病	やや多
	うどんこ病	やや少
	褐斑病	並
野菜全般	アブラムシ類	やや多
	ハダニ類	やや少
	アザミウマ類	やや多
カンキツ	かいよう病	並
	そうか病	やや多
	黒点病	並
	灰色かび病	並
	ミカンハダニ	やや少
	ヤノネカイガラムシ	少
	チャノキイロアザミウマ	やや少
カキ	うどんこ病	少
	円星落葉病	並
	角斑落葉病	やや多
	チャノキイロアザミウマ	並
モモ	せん孔細菌病	並
	カイガラムシ類	並
キウイフルーツ	かいよう病	並
果樹全般	カメムシ類	やや少

気象予報

近畿地方　１か月予報　（04/19～05/18）

2025年04月17日14時30分 大阪管区気象台 発表		
向こう1か月 04/19～05/18	天候	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率50%です。
	降水量	降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 04/19～04/25	気温	1週目は、高い確率70%です。
2週目 04/26～05/02	気温	2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
3～4週目 05/03～05/16	気温	3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



Ⅰ．水　　稲

1．もみ枯細菌病による苗腐敗症

(1) 予報内容　　発生量　並

(2) 予報の根拠

① 前年の県内全域におけるもみ枯細菌病の本田での発生面積率は 0%（平年 1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発病ほ場から採種した種子は使用しない。

② 種子消毒を行う。

2．ばか苗病

(1) 予報内容　　発生量　並

(2) 予報の根拠

① 前年の県内全域におけるばか苗病の本田での発生面積率は 0%（平年 2%）であった。

② 種子消毒に用いる薬剤の効果は安定している。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① もみ枯細菌病による苗腐敗症に準じる。

3．いもち病（苗いもち、葉いもち）

(1) 予報内容　　発生量　並

(2) 予報の根拠

① 5 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。

4．縞葉枯病

(1) 予報内容　　縞葉枯病　　発生量　　やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部におけるヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市 1.6%（平年 4.2%）、かつらぎ町 1.7%（平年 4.3%）であった。

② 県北部および中部の本田における前年のイネ縞葉枯病の発生面積率は 0%（平年 3%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。

5．ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容　　発生量　並

(2) 予報の根拠

① 4 月上旬の休閑田における 20 回振りすくい取り調査による平均生息数は、和歌山市 4.7 頭（平年 46.9 頭）、紀の川市で 0.3 頭（平年 6.4 頭）、かつらぎ町で 34.7 頭（平年 38.8 頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。

6．イネミズゾウムシ

(1) 予報内容　　発生量　並

(2) 予報の根拠

① 予察灯による4月1～20日の誘殺数は、上富田町で0頭（平年3.8頭）、那智勝浦町で0頭（平年0.7頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。

② 5月中旬までに田植えする地域のうち、多発地ではさらに田植え3～4週後に薬剤を処理する。

③ イネミズゾウムシに効果がある育苗箱施薬剤を施用していないほ場で、田植え3～7日後に成虫による食害株率が30%あるいは成虫が1株あたり0.5頭を超える場合は、直ちに薬剤防除を実施する。

Ⅱ. 野　　菜

＜タマネギ＞

1. 灰色かび病（白斑葉枯病）

(1) 予報内容　　発生量　並

(2) 予報の根拠

① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は0%（平年1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ほ場の排水を良くする。

② 発病葉や収穫後の残さは、ほ場から速やかに持ち出して適切に処分する。

2. べと病

(1) 予報内容　　発生量　並

(2) 予報の根拠

① 県北部での4月中旬の二次感染株の発生ほ場率は37%（平年32%）、発病株率は0.8%（平年1.6%）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ほ場をこまめに見回り、二次感染株の早期発見と発病葉の除去を行う。除去した発病葉は、ほ場の外に持ち出して適切に処分する。また、収穫後の発病葉は翌年の発生源となるので、除去した発病葉と同様に集めてほ場の外に持ち出し適切に処分する。

② 二次感染株を確認した場合は、早急に薬剤散布を行う。発生が認められないほ場においても、胞子の飛散による発病拡大を防ぐため予防散布を徹底する。

③ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

④ 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。

＜キュウリ＞

1. べと病

(1) 予報内容　　発生量　やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は30%（平年28%）、発病葉率は1.8%（平年2.7%）であった。

② 県中部での4月下旬の発生ほ場率は82%（平年44%）、発病葉率は34.8%（平年11.9%）であった。

③ 5月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
② 薬剤防除は予防散布を重点に、薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. うどんこ病
(1) 予報内容　　発生量　やや少
(2) 予報の根拠
① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率2%、発病葉率0.0%）であった。
② 県中部での4月下旬の発生ほ場率は55%（平年72%）、発病葉率は11.2%（平年17.4%）であった。
③ 5月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
② 薬剤防除は予防散布を重点に、薬液が葉裏に十分かかるように行う。
③ 薬剤の感受性低下を防ぐため、同一系統の薬剤は連用しない。

3. 褐斑病
(1) 予報内容　　発生量　並
(2) 予報の根拠
① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は10%（平年6%）、発病葉率0.4%（平年0.2%）であった。
② 県中部での4月下旬の発生ほ場率は0%（過去9年の平均：発生ほ場率32%、発病葉率7.5%）であった。
③ 5月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
② 発病葉や収穫後の残さは速やかに処分する。
③ 資材に付着した病原菌の胞子が伝染源になるので、支柱等再利用する資材は栽培終了後に消毒する。ネットやマルチ等は更新する。

＜野菜全般＞

1. アブラムシ類
(1) 予報内容　　発生量　やや多
(2) 予報の根拠
① 県北部のキャベツにおける4月下旬の発生株率は、モモアカアブラムシ16.5%（平年6.3%）、ニセダイコンアブラムシ1.0%（平年0.3%）であった。
② 県中部の施設栽培キュウリにおける4月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は17%（平年14%）であった。
③ 県中部の施設およびトンネル栽培スイカにおける4月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は46%（平年46%）であった。
④ 黄色水盤（紀の川市）への4月1～20日までの飛来数は、29頭（平年115.4頭）であった。
⑤ 5月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. ハダニ類
(1) 予報内容　　発生量　やや少

(2) 予報の根拠
① 県北部のイチゴにおける4月中旬のナミハダニは発生ほ場率11%（平年47%）、生息葉率0.7%（平年18.6%）、カンザワハダニは発生ほ場率0%（平年：発生ほ場率13%、生息葉率3.5%）であった。
② 県中部の施設およびトンネル栽培スイカにおける4月中旬の発生ほ場率は54%（平年70%）、1葉当たりの生息密度は0.1頭（平年0.2頭）であった。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① ハダニ類はほ場の周辺から侵入するので、外縁部の株において早期発見に努め、初期防除を行う。
② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

3. アザミウマ類
(1) 予報内容　　発生量　やや多
(2) 予報の根拠
① 県北部のイチゴにおける4月中旬のヒラズハナアザミウマは発生ほ場率56%（過去9年の平均49%）、1花当たり生息密度0.1頭（過去9年の平均0.5頭）、ミカンキイロアザミウマは発生ほ場率0%（過去9年の平均：発生ほ場率9%、1花当たり生息密度0.1頭）であった。
② 県中部の施設栽培キュウリにおける4月中旬のミナミキイロアザミウマは発生ほ場率58%（平年31%）、ミカンキイロアザミウマは発生ほ場率8%（平年6%）であった。
③ 5月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 生息密度の低い時期から薬剤防除を行う。

Ⅲ. 果　　樹

＜カンキツ＞

1. かいよう病
(1) 予報内容　発生時期　やや遅（初発日の平年5月22日）
　　発生量　　並
(2) 予報の根拠
① 予察ほ場（有田川町奥）における「宮川早生」の展葉期は4月24日（平年4月19日）であった。
② 予察ほ場（無防除､有田川町奥）における春葉の越冬病斑の発病葉率は6.7%（平年9.2%）であった。
③ 前年10月中旬の県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における春葉発病の発生ほ場率は25%（平年19%）、発病葉率は1.2%（平年0.5%）であった。
④ 5月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 薬害対策を講じた上で銅水和剤の予防散布を行う。
② 罹病枝葉の剪除と防風垣や防風ネットの整備に努める。

2. そうか病
(1) 予報内容　　発生時期　やや遅
　　発生量　　やや多
(2) 予報の根拠
① 予察ほ場（有田川町奥）における「宮川早生」の展葉期は4月24日（平

年 4 月 19 日）であった。

② 前年 8 月中旬の県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）におけるウンシュウミカンの果実発病の発生ほ場率は 18%（平年 8%）であった。

③ 5 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 常発ほ場や前年多発ほ場は発芽直後の防除を基本とするが、発芽直後に防除できなかった場合は早急に散布を行う。

② その他のほ場では満開期に黒点病、灰色かび病を防除する際、そうか病にも適用のある薬剤を用いる。

3. 黒点病

(1) 予報内容　　発生量（初期感染）　並

(2) 予報の根拠

① 5 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹上及びほ場内外に放置された枯枝が伝染源となるため早急に処分する。

4. 灰色かび病

(1) 予報内容　　発生量　並

(2) 予報の根拠

① 5 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 常発ほ場では満開期に防除を行う。

② 開花期～落弁期に曇雨天が続くと発生が助長されるので、必要に応じて防除する。

5. ミカンハダニ

(1) 予報内容　　発生量　やや少

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（有田川町奥）における 4 月中旬の発生葉率は、無防除区 4.0%（平年 10.5%）、マシン油乳剤を散布している慣行防除区 0%（平年 0.4%）であった。

② 5 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 冬期から春期にかけてマシン油乳剤を散布していないほ場では、夏用マシン油乳剤 200 倍の散布を早急に行う。

6. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容　　発生時期　やや早
　　発生量　　少

(2) 予報の根拠

① 前年 10 月中旬の発生ほ場率は 0%（平年 5%）、寄生果率は 0%（平年 0.3%）であった。

② 予察式によると、第 1 世代 1 齢幼虫初発日は 5 月 9 日（実測値の平年 5 月 12 日）と予想される。

③ 5 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 第 1 世代 1 齢幼虫初発日から 35～40 日後の 2 齢幼虫最盛期が防除適期である。

7. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容　　発生量　やや少
(2) 予報の根拠
① 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる4月1～20日の誘殺数は由良町4頭（平年8.2頭）、有田川町2頭（平年2.2頭）であった。
② 5月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 防風樹のイヌマキやサンゴジュの近くでは発生が多くなるので、特に丁寧に薬剤防除を行う。

＜カ　キ＞

1. うどんこ病
(1) 予報内容　　発生量　少
(2) 予報の根拠
① 前年10月の「富有」の発生ほ場率は44%（平年71%）、発病葉率は2.4%（平年13.8%）であった。
② 5月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 子のう胞子飛散最盛期は4月下旬～5月上旬であり、この時期に水和硫黄剤を散布する。前年多発したほ場では、この時期の防除を徹底する。
② 4～5月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。
③ 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、薬液は葉裏をねらって丁寧に散布する。

2. 円星落葉病
(1) 予報内容　　発生量　並
(2) 予報の根拠
① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は25%（平年39%）、発病葉率は5.9%（平年3.4%）であった。
② 5月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 子のう胞子飛散は、5月上中旬から始まり、5月下旬～7月中旬の降雨後に多い。二次感染はしない。
② 薬剤防除は5月から8月までマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

3. 角斑落葉病
(1) 予報内容　　発生量　やや多
(2) 予報の根拠
① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は94%（平年75%）、発病葉率は15.2%（平年13.0%）であった。
② 5月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 分生子による感染は5月上中旬から始まり、7月中下旬まで続く。二次感染を繰り返す。
② 薬剤防除は円星落葉病に準ずる。

4. チャノキイロアザミウマ
(1) 予報内容　　発生量　並
(2) 予報の根拠
① 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における黄色粘着トラップによる4月1～20日の誘殺数は2頭（平年2.9頭）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 開花期～落弁期に防除する。

② 防風樹のイヌマキやサンゴジュの近くでは発生が多くなるので、特に丁寧に薬剤防除を行う。

＜モ　モ＞

1. せん孔細菌病

(1) 予報内容　　発生量　並

(2) 予報の根拠

① 県北部の4月中旬の発病葉の発生ほ場率は0%（平年14%）、発病葉率は0%（平年0.4%）、発病枝の発生ほ場率は20%（平年23%）、発病枝率は0.3%（平年1.1%）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 春型越冬病斑形成枝は葉への伝染源となるので剪除する。

② 果実発病は5月以降の風雨により多くなるので、降雨直前の予防散布を徹底する。予防散布ができなかった場合、降雨後できるだけ早く薬剤散布を行う。

③ 本病の防除薬剤のうち、マイコシールドは連用すると葉先の黄化を生じることがあるので注意する。

2. カイガラムシ類

(1) 予報内容　　発生量　並

(2) 予報の根拠

① 県北部の4月中旬のカイガラムシ類（ウメシロカイガラムシ雌成虫・クワシロカイガラムシ雌成虫・ナシマルカイガラムシ幼虫）の寄生枝の発生ほ場率は20%（平年21%）、寄生枝率は1.5%（平年0.9%）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹体生育期における防除適期は、第1世代のふ化幼虫発生時期であるため、ふ化幼虫発生盛期の少し後に薬剤散布を実施する。

② 県北部のクワシロカイガラムシのふ化幼虫発生盛期は5月8日前後と予想している。

＜キウイフルーツ＞

1. かいよう病

(1) 予報内容　　発生量　並

(2) 予報の根拠

① 県北部における4月中旬の発病葉の発生ほ場率は0%（過去6年の平均0%）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 新梢の萎れ・黒変や樹液の漏出がみられる枝は、前年枝の基部から切除する。

② 作業に使用した器具類（ハサミ、ノコギリ等）は70%エタノールで消毒する。

③ 風当たりの強いほ場では、防風対策を行う。

＜果樹全般＞

1. カメムシ類

(1) 予報内容　　発生量　やや少

(2) 予報の根拠

① 県内47地点のチャバネアオカメムシ越冬成虫の捕獲頭数は落葉50リットル当たり0.2頭（前年2.9頭、平年0.6頭）、捕獲地点率は14.9%（前年48.9%、平年21.7%）であった。

② 紀の川市粉河の予察灯における4月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメムシが0頭（平年2.6頭）、ツヤアオカメムシが0頭（同4.4頭）であった。有田川町奥の予察灯における4月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメムシが3頭（平年3.4頭）、ツヤアオカメムシが2頭（同6.3頭）であった。みなべ町東本庄の予察灯における4月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメムシが0頭（平年1.9頭）、ツヤアオカメムシが3頭（同37.0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きいので、ほ場内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。

② 山林に隣接するほ場はカメムシ類の飛来時期が早いので、ほ場内での発生状況を観察して早めに防除する。

③ ウメでは被害の品種間差が大きく、小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。

④ カンキツでは蕾、花が加害されるので、被害状況を観察して防除する。

⑤ 今後の発生動向については、農林水産部鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報や各地域の振興局農業水産振興課、ＪＡ等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○鳥獣害対策課ウェブページ　〈農作物病害虫防除所〉

https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html

○和歌山県ホームページ　〈わかやま県政ニュース〉

http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/

※詳しくは、農作物病害虫防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）　TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）　TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）　TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）　TEL 0739-74-3780